

茨城県東茨城郡 城里町

農業と歴史の魅力を活かし、4つの政策を展開する

御前山と那珂川 (写真提供 城里町)

茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第33回は、城里町です。筑波銀行は、町内に営業店を設置し、城里町の皆さまと密接な関係を築いています。常北支店長の武藤由貴が、城里町長 上遠野修氏、副町長 小野瀬篤郎氏、総務課長 仲田不二雄氏、企画財政課長 鯉淵弘之氏にお話を伺いました。

●城里町が一番と考えていること、自慢できることはどのようなことでしょうか

生涯現役を目指す元気な高齢者が多いので、県内で介護保険料が最も安いまちです。また、人口1,000人当たりの犯罪件数が県内でも極めて少なく、安全なまちであることも自慢です。そして、首長が県内で最も若く、若い人も活力を持てるまちであると自負しています。

農業が盛んで、おいしい農産物が採れ、米やレッドポアロー(赤ねぎ)など特産品もたくさんあります。七会地区で生産されるコシヒカリは日本一になったこともある^(注1)自慢の農産物です。

現在は広い平地に土地改良事業で整備した大規模な水田が一等地とされていますが、かつては、自然な地形を利用し、山あいの平地を整備し、山から流れてくる小川の水を引き込んだ水田が主流でした。本町はまさにそのような地形で、山と小川を活かして水田を開き、那珂川の氾濫の際に運ばれてきた土壌によって農地が豊かになり、おいしいコメが採れるようになったのだと考えています。豊かな地であったため人が集い、文化が発展してきたのです。

本町の歴史は古く、古墳時代から人が住み始めています。数多くの文化財があり、薬師寺の「薬師如来及両脇侍像」と小松寺の「浮彫如意輪観音像」は国指定の重要文化財です。また、仏国寺奥の院は、平成25年に発見された「常陸名所図屏風」に描かれており、江戸時代から名所として有名だったことがうかがえます。

今年7月には、廃校となった旧北方小学校の校

舎と体育館を改修した県埋蔵文化財センター「いせきびあ茨城」がオープンします。県の発掘調査で出土した文化財を整理、保管する拠点施設です。校舎裏には町指定文化財の頓(徳)化原古墳もあり、県と本町はこの古墳といせきびあ茨城を一体的に整備し、公開、活用することを検討しています。本町の北に位置する御前山は、「関東の嵐山」と呼ばれるほど風光明媚です。近くには皇都川が流れており、奈良時代の女帝孝謙天皇にまつわる伝説もあります。

また、桜田門外の変に参加した鯉淵要人や増子金八、明治初期に日本初の女性教師となった黒澤止幾などは、高い教養と情報収集力を持って行動し、歴史にその名を残しています。

本町は、鉄道の駅も、高速道路のICも、4車線の幹線道路がありません。昭和40年(1965年)頃から周辺の自治体では都市計画が進められてきましたが、豊かな自然を大切にしたいと願う本町では大規模な開発は行われてきませんでした。水戸市に隣接する場所にありながら、来訪しづらい印象があったかもしれません。しかし、昨年には念願の123号バイパスが一部開通し、城里町の魅力をこれまで以上に発信する機会を得ました。

現在、町政を担っている我々は与えられた条件のなかでより良い



国道123号桂常北バイパス開通式 (写真提供 城里町)

(注1) 平成23年(2011年)の「お米日本一コンテストinしずおか2011」において、「なかないの里コシヒカリ生産研究部会」の生産者2名が、最優秀賞と優良賞を受賞した。七会地区は、水、土地、気候に恵まれ、江戸時代には水戸藩代々の献上米産地であった。(出典：JA常陸)



上遠野町長



小野瀬副町長



仲田総務課長



鯉淵企画財政課長



武藤支店長

にも金融機関としてご協力いただいています。

本町が活性化し、新たな雇用が生まれるような企業を誘致してくれるとありがたいです。それによって

まちづくりをしていかななくてはなりません。

豊かな自然と農業、歴史を活かして本町を売り出していきます。廃校になった小・中学校の空き校舎の活用もその一環です。いせきびあ茨城の整備が実現した旧北方小学校の他には、旧七会中学校にサッカーJリーグ2部のFC水戸ホーリーホックのクラブハウスと練習グラウンドを移転させる計画や、旧坏小学校跡地に特別養護老人ホームを誘致する計画があります。

フィルムコミッションにも力を入れ、町内各所でテレビドラマなどのロケが行われています。本町がロケに使われ、映画やテレビに登場することで、住民が明るい気持ちになることを願っています。

●今後の展望についてお聞かせください

4つの柱で政策を展開します。①働く場所、②住みやすい環境、③住む場所、④住みたいと思う心をつくることに力を入れています。

住民が働く場所を確保するため、企業誘致を進めます。また、子どもが生まれてから高校を卒業するまで、安心して子育てできるように、幼稚園・保育園等に通う5歳児の保育料無料化や小・中学校給食費の負担軽減、公共交通機関で通学する高校生の通学定期券購入費用の3割助成を行い、子育てしやすい環境を整えます。

住みやすい環境づくりのため、中学校に自転車で通う生徒が安全に通える道路を整備します。また、七会診療所を建て替えて安心して医療サービスが受けられるような体制を整えます。

住宅の面では、町外から桂・七会地区の町営住宅に移住した子育て世帯に、30万円の子育て応援資金を進呈する事業を平成28年度から開始します。また、宅地や住宅開発を後押しできる事業も検討中です。さらに、子どもたちに、本町にずっと住んでいたいと思う心を育てるために、本町の歴史や文化をまとめた副読本「城里学ぶっく」をつくり、小・中学校で継続的にふるさとについて学びます。

来て、住んで、住居を構えて、ずっと本町で暮らしてもらうことが理想です。

●筑波銀行に期待することをお聞かせください

ホロルのたまご～しろさと町民まつり～やシクロクロス大会などのイベント、地方創生の取組み

住民が移住してきてくれた場合に備えて、人口増加に資する宅地の開発や、利用しやすい住宅ローン商品の提供を行政とタイアップして実施していただきたいです。

さらに、宅地開発関連では、デベロッパーの本町への誘致や、資金提供にも一役買ってもらいたいと思っています。

また、本町で古くから事業を展開している企業のやる気を高め、引き出すような活動もしてほしいです。ローカル10,000プロジェクト^(注2)や、創業支援を推進したいと考えていますが、当の企業がなかなか手を挙げられない状況です。創業支援には1年半全く応募者がありませんでした。

資金を調達して事業を始めたり、拡大したりするのは低金利の現在がチャンスなので、普段、企業と接する中で、本町が後押しする様々な支援制度があることを説明し、活用してもらうような取組みをお願いします。

余談ですが、本町には良い水があり、良い米が採れるので、日本酒をつくりたいと考えています。本町には酒造会社はありませんが、他市の酒造会社に委託して、本町で栽培している酒米で造った日本酒「酔鶴」をふるさと納税の返礼品のひとつとしています。

今後、TPPが推進された場合、本町の農家が外国から入ってくる農産物と競争するためには、食糧米では太刀打ちできないと考えています。現在、飼料米の栽培が盛んになってきていますが、それも、10年先には競争力を失う恐れがあります。地域で酒米を栽培し、それで造った日本酒を販売し、さらには輸出も視野に入れていくといったことも必要ではないかと考えています。



インタビュー日：平成28年2月23日

(文責：筑波総研株式会社 主任研究員 國安 陽子)

(注2) 創業支援事業計画(産業競争力強化法)に基づき、地域の資源と資金を活用して、雇用吸収力の大きい地域密着型起業を10,000事業程度立ち上げるプロジェクト。地域密着型起業の立ち上げを支援するため、地域金融機関から融資を受けて事業化に取り組み民間事業者の初期投資費用に対して、地方自治体が助成する場合に、交付金(地域経済循環創造事業交付金)を交付する。(出典：総務省地域力創造グループ)